

## Y14b はりま宇宙講座 - 星空案内人資格認定講座の実施状況とその評価

坂元 誠、飯塚 亮、石田 俊人、黒田 武彦 (西はりま天文台)、井上 毅 (明石市立天文科学館)、小関 高明 (星の子館)、太井 義真、橋本 靖之 (加古川市立少年自然の家)、田中 慎悟 (NPO 法人 人と自然の会)、細谷 秀樹 (加古川宇宙科学同好会)、安田 岳志 (姫路科学館)、柴田 晋平 (山形大学)

星空案内人資格認定制度は、山形大学理学部と NPO 法人小さな天文学者の会で開発され、平成 19 年度から全国でスタートした制度である。この制度は、科学文化による地域再生の人材として、さらに、科学振興のため最重要手段である科学ボランティアの人材として、星空案内人 (星のソムリエ) を養成することを目的としている。われわれはこの制度に基づく全国 4 番目のモデルとして、19 年度から「はりま宇宙講座」を開始した。

はりま宇宙講座の特徴は、西はりま天文台を中心として、プラネタリウム、科学館、児童館、野外活動施設といった天文関係施設でありながら、異なる性質の社会教育施設で行うことである。そして、これら 5 つの施設が連携することで、各々の特徴を行かした講座を展開し、あらゆる地域で活動可能な人材が育成できるか、その実現性と効果も検証できる。そのため、プラネタリウムを使える人材の育成を目的とした独自の講座を導入するなどした。また、施設連携により、施設毎に異なる利用者層の施設・地域を越えた交流が実現する可能性もある。

9 月より開始した初年度のはりま宇宙講座は、3 つの必修講座と、5 つの中から 3 つ以上を選ぶ選択講座からなる。関西を越える地域から 93 名の応募があり、幅広い年齢層、多彩な応募動機や、ボランティア活動に対する関心の高さなどがうかがえた。はりま宇宙講座は、天文に興味のある人材に対し、ボランティア活動を促す動機付けとして十分であると認識した。さらに、受講者の全員が、出席した講座についてレポートなどを提出し、単位を取得するほど意欲が高いことも分かった。本講演では、はりま宇宙講座の実施状況と結果、受講者からの評価、主催者からの問題点、来年度への改善点などについて報告をする。